

英語学習者の語彙学習行動改善に資する方略指導プログラムの開発

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2022-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 大貴 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22277

「博士学位請求論文」審査報告書

審査委員 (主査) 国際日本学部 専任教授

氏名 尾 関 直 子

(副査) 国際日本学部 専任教授

氏名 大 須 賀 直 子

(副査) 国際日本学部 専任准教授

氏名 マクロクリン, デイヴィッド

- 1 論文提出者 山本 大貴
- 2 論文題名 Developing Strategy Training Programs to Promote English Learners' Successful Motivated Vocabulary Learning
(日本語文題) 英語学習者の語彙学習行動改善に資する方略指導プログラムの開発

3 論文の構成

Chapter 1

Introduction

Chapter 2

2.1 The Origin of Research on L2 Learners' Individual Difference Factors

2.2 Significance of Researching L2 Motivation

2.3 Self-determination Theory

2.3.1 How self-determination theory attracted attention

2.3.2 Introduction to self-determination theory

2.3.3 Self-determination theory in the recent L2 motivation research

2.4 The L2 Motivational Self System

2.4.1 Introduction to the L2 Motivational Self System

2.4.2 Vision enhancement

2.4.3 Ideal L2 self and extrinsic motivation

2.5 Specific Types of L2 Motivation

2.5.1 Significances of researching specific types of L2 motivation

2.5.2 An example of specific-level motivation research: Motivation for extensive reading

2.5.3 Previous studies on VLM

2.5.4 Topics about VLM that need further research

2.6 Learning Strategies

2.6.1 Introduction to learning strategies

2.6.2 Learning strategies and self-regulation

2.6.3 Strategy trainings

2.6.4 Tips to conduct successful strategy trainings

2.6.5 Topics about strategy trainings that need further research

2.6.6 Vocabulary learning strategies

2.7 Research Questions of the Present Study

Chapter 3

3.1 Purposes and Research Questions of Study 1

3.2 Method

3.2.1 Participants

3.2.2 Instrument

3.2.3 Data analysis

3.3 Results and Discussion

3.3.1 RQ1: Do English learners' IM-V and SEM-V have room for improvement?

3.3.2 RQ2: Are IM-V and SEM-V independent of IM-G and SEM-G?

3.3.3 RQ3: Do IM-V and SEM-V significantly predict MLB-V? Are the predictions stronger than the predictions of IM-G and SEM-G?

3.4. Conclusion

Chapter 4

4.1 Background

4.2 Research Questions

4.3 Method

4.3.1 Participants

4.3.2 Instrument

4.3.3 Data analysis

4.4 Results and Discussion

4.4.1 RQ1: Can enhancement of Vision-V be potentially more effective than of SEM-V?

4.4.2 RQ2: Does Vision-V account for MLB-V more than Vision-G?

4.4.3 RQ3: Is Vision-V correlated with other specific types of Vision?

4.4.4 RQ4: How much do IM-V and Vision-V account for MLB-V?

4.5 Conclusion

Chapter 5

5.1 Introduction

5.1.1 Two types of motivational strategies

5.1.2 Characteristics of the strategy training program

5.1.3 Teaching principles of vocabulary learning

5.2 Method

5.2.1 Participants

5.2.2 The teacher

5.2.3 Contents of the training

5.2.4 Data collection and analysis

5.3 Results and Discussion

5.3.1 Survey A

5.3.2 Recordings of participants' discussions

5.3.3 Vocabulary tests

5.3.4 Survey B

5.4 Conclusion

Chapter 6

6.1 Introduction

6.1.1 Characteristics of the strategy training in Study 4

6.1.2 Examining how discussions can be active

6.2 Method

6.2.1 Participants

6.2.2 Contents of the training

6.2.3 Data collection and analysis

6.3. Results and Discussion

6.3.1 Participants' perceptions toward the training

6.3.2 Scores of the Kahoot! contest and the vocabulary test

6.3.3 Learning strategies developed through the discussion

6.3.4 Motivating and demotivating moments in discussion

6.4 Conclusion

Chapter 7

7.1 Answers for the Research Questions

7.2 Significances of the Present Study

7.2.1 Contribution to SLA research

7.2.2 Contribution to English education

7.3 Limitations

References

Appendixes

4 論文の概要

本研究は、学習者の語彙学習に対する動機づけ (Vocabulary Learning Motivation: VLM) を高める動機づけ方略の開発及び、その実践を目指している。本論文は7章から構成されている。以下に各章の概要を記す。

第1章では、本論文の序論として、研究の目的と重要性を論じている。

第2章では、本研究と関係の深い先行研究のレビューを行っている。その後、本研究における以下の3つのリサーチ・クエスチョンを紹介している。

- (1) 学習者のVLMを高める動機づけ方略の開発に意義はあるか。
- (2) 学習者の語彙学習行動 (motivated learning behavior for vocabulary learning: MLB-V) に影響を与える要因は何か。
- (3) 学習者の語彙学習行動改善のために効果的な指導方法はどのようなものか。

第3章は、Study 1について論じている。Study 1の目的の1つは、学習者のVLMを高める動機づけ方略の開発に意義はあるかを検討することである。そのためには、1) VLMと英語学習全般に対する動機づけの間に強い相関関係がないこと、2) 学習者のVLMがさほど高くないこと、3) VLMが英語学習全般に対する動機づけよりもMLB-Vを強く予測すること、の3点を確認する必要があった。大学で英語を学ぶ学習者88人を対象にアンケート調査を実施し、結果を統計的に分析した。その結果、1) VLMと英語学習全般に対する動機づけの相関はそれほど強くないこと、2) 学習者の語彙学習に対する内発的動機づけ (intrinsic motivation: IM)は低い傾向にあったが、語彙学習に対する自己決定性の高い外発的動機づけ (self-determined type of extrinsic motivation: SEM)は非常に高いこと、3) IM-Vは英語学習全般に対するIMよりもMLB-Vを強く予測するが、SEM-VはMLB-Vをほとんど予測しないことが明らかになった。これらの結果は、IM-Vを高めることは効果的だが、SEM-Vを高める指導の効果は小さいことを示唆していた。

第4章は、Study 2について論じている。Study 2では、豊かな語彙知識を獲得し、その知識を活かして活躍している自己像のヴィジョン (Vision-V) に注目し、Vision-Vの明確化はSEM-Vを高めるよりもMLB-Vの改善に効果的であるという仮説を立て、97名の英語学習者を対象とするア

ンケート調査で得られたデータを分析して検証した。その結果、仮説通り Vision-V は SEM-V よりも MLB-V を強く予測することが示唆された。

第5章は、Study 3 について論じている。Study 3 では、学習方略指導により VLM を向上させることを目指した授業をデザインし、実践した。参加者は、大学生 52 名である。その結果、多くの参加者が、その実践を楽しく意義深いものだと感じ、さらに自らの VLM を高められる方略を学ぶことができていたことがわかった。クラスメートとの議論によってより優れた方略が誕生したケースがみられるなど、議論を行うことの効果も示された。また、授業受講後に受験した語彙テストの平均点が、授業受講前に受験した語彙テストの平均点よりも有意に高くなった。

第6章では、Study 4 について論じた。Study 4 は、Study 3 で行った実践を改良したものを、大学生 41 名に実施し、効果を検証したものである。具体的には、アプリを利用したこと、Vision-V を明確化する活動を行ったこと、Study 3 で参加者が考えた語彙学習方略を紹介したこと、などが Study 3 の実践との違いである。データを分析した結果、多くの参加者が、本実践における語彙学習は、普段の語彙学習よりも楽しく熱心に行っていたことがわかった。語彙テストの平均点も、非常に高くなった。

第7章では、リサーチ・クエスチョンの答えをまとめたうえで、本研究の意義と限界について論じている。

5 論文の特質

語彙学習の向上は、第二言語を習得するには、欠かせないものであるが、語彙学習には、多大な努力が必要となる。様々なジャンルの英語の文章を理解できるようになるためには、8000 語から 9000 語もの英単語を知っている必要があるとされているが、これほど大量の単語を学習するには、強い動機づけが必要となる。さらに、一般的に面白いとは言えない語彙学習は、授業外でしばしば行われることが多いので、教師による学習者への動機づけが不可欠となる。しかし、VLM を高めるための動機づけ方略の開発を行った研究はこれまでほとんどなかった。その点で、今後の英語教育における語彙学習指導に与える示唆は大きい。

また、本論文では、合計4つの研究を行い、学習者の VLM を高める動機づけ方略の開発に意義はあること、豊かな語彙知識を獲得し、それを活かして活躍している自己像のヴィジョン (Vision-V) の明確化は SEM-V を高めるよりも MLB-V の改善に効果的であることを明らかにし、学習方略指導により VLM を向上させることを目指した授業の実施結果、さらには、授業の改良版を実践した結果を提示している。このように丁寧に調査研究を積み重ねて、理論を実践化し、その効果を実証しているところも本論文の特質である。

6 論文の評価

先行研究レビューでは、第二言語学習者の動機づけ研究の歴史、動機づけ研究の意義、自己決定理論、第二言語における動機づけ自己システム、動機づけ方略、VLM、学習方略に関する研究と関係分野をもれなく論理的にレビューしており、完成度が非常に高い。また、先行研究のレビューを通して、よい語彙学習者になるためには、自分の動機づけをコントロールすることが重要であることが強調されており、リサーチ・クエスチョンと論理的につながるように計算されている。

ほとんど研究されてこなかった学習者の VLM が存在するのか、学習者の語彙学習行動に影響を与える要因は何か、学習者の語彙学習行動改善のために効果的な指導方法はどのようなものかについて、数年にわたる調査研究を積み重ね明らかにしており、研究結果も説得力があり、語彙指導に関する有益な研究といえる。

7 論文の判定

本学位請求論文は、国際日本学研究科において必要な研究指導を受けたうえ提出されたものであり、本学学位規程の手続きに従い、審査委員全員による所定の審査及び最終試験に合格したので、博士（国際日本学）の学位を授与するに値するものと判定する。

以 上

主査氏名（自署）
